

ともに未来へ

東京海上グループ

CSRブックレット 2018



TOKIO MARINE

東京海上ホールディングス株式会社

目次

*本文中の所属・役職・肩書きなどは取材当時のものです

P4-5 世界の課題と私たちにできること

P6-7 ドライブエージェントパーソナル

P8-9 ぼうさい授業

P10-11 世界の課題と私たちにできること

P12-13 Green Gift マングローブ植林事業

P14-15 Green Gift 地球元気プログラム

P16-17 世界の課題と私たちにできること

P18-19 仕事と介護の両立セミナー

P20-22 障がい者スポーツ支援

P23-25 東京海上グループについて

P26 トップメッセージ

P27 付録(防災クリアファイル)

東京海上グループが取り組んでいくこと

商品・サービスを通じて安心・安全をお届けする

自然災害に備える

少子高齢化に対応する

地域とともに地球を守る

グローバルな気候変動・気象災害から人々を守る

多様性を尊重する

人を育てる

世界の課題

*「国連持続可能な開発目標」より



あらゆる年齢のすべての人々が健康的に過ごせるようにし、福祉を促進していくことを目指します。都市の居住環境が安全・快適で文化的なものになるよう取り組んでいきます。



気候変動とその影響を軽減することを目指します。陸と海の汚染を減らし、その資源や生態系を守り、将来世代に引き継いでいきます。



性別や年齢、障がいなどによらず、すべての人々に質の高い教育を提供し、学びやスキル向上の機会をもたらし続けることを目指します。人や国の不平等を是正し、社会・経済格差の解消に取り組んでいきます。

東京海上グループ 3つのCSR主要テーマ

安心・安全をお届けする



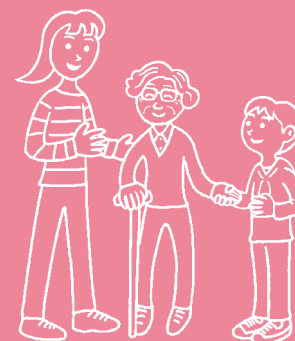
テーマ 1

地球を守る



テーマ 2

人を支える



テーマ 3

地球温暖化や科学技術の目まぐるしい進歩など、私たちを取り巻く環境は常に変化しています。また、それにもなう社会課題も新たに生まれています。一人ひとりの力で解決することが難しい課題も、皆様とともに考え、発信し、行動することで、より良い未来にできると、東京海上グループは信じています。さあ、私たちと一緒に持続可能な未来づくりをはじめましょう。

みんなで行動しよう。
みんなで未来を変えていこう。



すべての国連加盟国が2030年までに取り組む行動計画 持続可能な開発目標 (SDGs)



SDGsでは、計画の実行にあたって「誰一人取り残さない」ことを宣誓しています。経済・社会・環境の三側面を調和させて持続可能な開発を実現することで、世界をより良いものへと変革することを目指し、具体的な行動計画を17の目標と169のターゲットで表しています。

安心・安全をお届けする

日々の暮らしや新しい挑戦の場面には、様々なリスクが潜んでいます。
保険を通じて、私たちはお客様に寄り添い、毎日を支えています。



	商品・サービスを通じて安心・安全をお届けする	自然災害に備える
P6 ドライブエージェント パーソナル	😊	😊
P8 ぼうさい授業	😊	😊



日々の生活の中に
どんなリスクがあるでしょう?



いざというとき、自分と大切な人を守れるようになろう

備える



- 自分に身近なリスクに対応した保険に加入しよう
- 防災グッズを揃えたり、防災訓練に参加しよう
- 身近な人と、災害時の心構えを共有しよう

「知る」に役立つWebサイト

あしたの笑顔のために
～防災・減災情報サイト～



<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/egao/>

知る



- 日々の生活の中に、どんなリスクが潜んでいるか調べてみよう
- どんな備えがあれば、自分の暮らしが「安心・安全」なものになるか、考えてみよう

新しい技術を活用しながら お客様をお守りしていきます。

ドライブレコーダ エージェント パーソナル(DAP)は
先進的なサービス。
自動車保険の特約としてご提供しています。



東京海上日動 関西損害サービス第二部
大矢 のりこ(左) 朴 優香(右)

言葉に表れない「思い」も 丁寧にくみ取りたい

大矢 私たちは日々、自動車事故の損害サービスを担当しています。まさにお客様の「いざ」というときに、直接お話しをさせていただく立場ですから、毎回緊張感をもって取り組んでいます。また、お客様に寄り添ってお守りすることに大きなやりがいも感じています。

朴 お客様にとって、交通事故は一生に一度あるかないかの大きな不安をお感じになる出来事です。中には解決が難しい事故もありますが、一つひとつ真摯に対応させていただくことによって、最後に「解決してくれてありがとう」「あなたが担当で良かった」といった言葉をか

技術革新をとらえながら お客様に寄り添っていく

朴 ドライブレコーダだけでなく、AIの普及など様々な技術革新が急速に進んでいます。損害サービスは、気持ちを持った「人」が対応してこそ、お客様にご満足いただけるのだと思います。今後もお客様の気持ちに寄り添いながら、専門性を高めていきたいです。

大矢 DAPは、事実を客観的にとらえることができるサービスではあります。お客様に事実をお伝えする際は、お考えに合っているか十分に配慮してお話するようにしています。そこはDAPができる前から変わらない点です。将来的に自動運転などが普及してくると、今までは異なる新たなリスクが生まれてくるなど、目まぐるしい変化が起こると思います。その変化に対応するとともに、私たちの仕事の原点である「困っているお客様をお守りたい」という強い気持ちを忘れずに、これからもお客様に安心をお届けしていきたいです。

けていただけると、またお客様ののために頑張っていくことができます。

大矢 事故に対するお考えやお気持ちは、お客様によって異なります。時間が経つにつれて、お客様の認識や感情が変わっていくこともあります。事故のショックもありますから、それは決して珍しいことではないのです。言葉にされていないお客様の気持ちに気を配りながら対応することが大切です。

DAPが提供する 様々な形の「安心」

大矢 事故の当事者となり、精神的な負担をお感じになりながら、冷静に事故について考えることが難しい場合などは特に、DAPはお客様のお役に立てる画期的なシステムです。

朴 右折した車が停止線を越えたとき、信号が何色だったのかが問われたケースがありました。以前であれば、その時間帯の信号の変わるサイクルを調査して、現場に足を運んで確認をして...と、確定するまでに非常

に時間がかかる状況でした。しかし、お客様がDAPのドライブレコーダーを設置してくだ

さっていたので、すぐに映像で信号の色を確認することができ、早期解決につながりました。お客様はその速さに驚かれたようです。また、DAPにご加入いただいた当初は、どのようになら役立ったのか深くイメージされていなかったようですが、DAPをお勧めした代理店さんにも大変感謝されていました。

大矢 お電話などで事故の状況を確認する場合は、お客様に時間もといただくことになり、すぐに解決の方向性までお話しができずお客様が不安に思われることもあります。映像があれば、客観的に事故の原因が明らかになり、お客様に具体的な解決の方針をお示しできるようになります。また、映像を通じて事故の衝撃の度合いなどを知ること、お客様と事故当時の記憶を共有することができ、お客様を思いやる気持ちが強くなります。



DAP
安心・安全をお届けする
3つのサービス



1 高度な事故対応

- 一定の衝撃を検知すると、自動で事故受付センターにつながり、ドライブレコーダーで通話が可能
- 事故映像を自動的に記録・送信

2 事故防止支援

- 危険地点を予測し、リアルタイムに注意喚起
- 片寄り走行や前方車両の接近を警告

3 安全運転診断

お客様の運転特性をもとに作成したお客様専用の「安全運転診断レポート」をご提供

わたしたちの町に地震や津波が来たらどうする？



地震が多い日本では、どこに住んでいても被災する可能性があります。いざというときに、子どもたち一人ひとりが自分の身を守るようになってほしいという思いから始まったのが、東京海上日動の「ぼうさい授業」です。

2017年4月、大阪府枚方市と東京海上日動は防災協定を締結し、地域の防災力を向上させるための連携・協力を約束しました。その一環として2018年1月に、枚方市立開成小学校の5年生に向けて「ぼうさい授業」を実施。市の職員、東京海上日動の代理店と社員が講師をしました。当日は動画やクイズを通じて地震や津波の仕組みを学び、地震が起きたときの行動や、日ごろの備えについて子どもたちと一緒に考えました。



地震や津波が起きる前、起きたときにどうすれば良いかを、一緒に考えましょう

地震や津波はどうして起こるのでしょうか？ 仕組みについて学びましょう



地震の後は、一人にならないように誰かと一緒にいます



Q 帰り道に地震が起きたらどうしますか？ 事前に何を準備しておけば良いでしょう？



地震に備えて、長持ちする食べ物やラジオ、救急箱などを準備しておきます



家族に連絡をしたり、合流できるようにします



この町があるからこそ、私は毎日代理店の仕事を続けていられます。もし災害が起きたとしても、この町の子もたち一人ひとりが、自分で考えて行動できるように、「ぼうさい授業」が役立てばと思います。

杉野保険サービス
杉野 将之さん

仕事では子どもと接する機会がないため、複雑なテーマをわかりやすく伝えることの難しさを新鮮に感じています。市との災害協定もふまえ、今後も東京海上日動ならではの知識を活かした活動で地域のお役に立てればと思います。

東京海上日動 大阪北支店
亀井 航平

災害が起きたときに大切なのは、自治体などからの支援が届く前の、自ら身を守る「自助」と、互いに力を合わせて助け合う「共助」です。家族やご近所どうしが助け合うには、「ぼうさい授業」などの機会を通じて幅広い防災の知識を地道に伝えることが重要だと改めて感じました。

枚方市役所 市民安全部
西村 隆志さん



地球を守る

地球環境問題は、現在のみならず次世代にとっても大きなリスクとなります。環境保護活動に取り組むことで、地球の未来と、安心できる社会をつくり続けます。

事業活動における
環境負荷を削減する

NPO などと
連携・協働して
環境活動を行う

東京海上グループの
取り組み

地球温暖化防止に
関連する
商品・サービス
をお届けする

「Green Gift」プロジェクト

東京海上日動では「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。

- お客様に「ご契約のしおり（約款）」などを紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web約款」などをご選択いただくことにより、紙資源の使用量を削減
- 紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポート




<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/>




豊かな地球環境を
未来につなぐために
何ができるでしょう？


かけがえのない地球環境をみんなで守り続けよう

共有する 

- 環境を考えた生活に必要な方法を周りと共有しよう
- 学校や会社などで取り組み、活動の輪を大きくしよう





体験する 

- 普段の生活で、省エネや3R（リデュース・リユース・リサイクル）に取り組もう
- 環境に配慮した商品・サービスを選ぼう・購入しよう

知る 

- 世界の環境課題について、最新の動向を調べてみよう
- 自分の暮らす地域で、環境がおびやかされている事例がないか調べよう

Green Gift 地球元気プログラムにも参加してみよう

		地域とともに地球を守る	グローバルな気候変動・気象災害から人々を守る
P12	Green Gift マングローブ植林事業		
P14	Green Gift 地球元気プログラム		

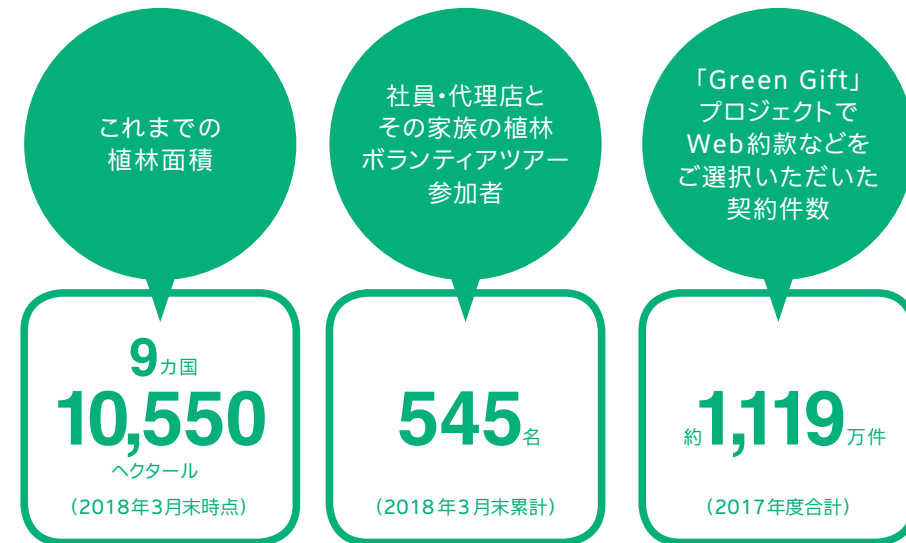
100年後、豊かな森が各地に広がっていることを願って。

熱帯・亜熱帯地方で、海水と淡水が混じり合う汽水域に生い茂るマングローブは「海の森」とも呼ばれています。マングローブ林は、二酸化炭素を吸収し蓄えることで地球温暖化を抑制する、高波や津波などの自然災害から沿岸の人々の生活を守る「みどりの防波堤」、豊かな生態系を育む「命のゆりかご」になるなど、様々な効果があります。

このように豊かな恵みをもたらすマングローブを、東京海上グループは「地球の未来にかけの保険」と位置づけ、1999年に植林を開始。2007年にはこの事業を100年間続けることを宣言しています。

19年にわたる活動で、森は大きく広がっています。今後はこの森を守り、育てるための保全活動にも力を入れていきます。

マングローブ植林の実績



インドネシア ドゥマック県

マングローブ植林ツアー

2017年9月、東京海上グループの役員・社員とその家族約20名が植林ツアーに参加しました。訪れたブドノ村では、過去に植えたマングローブが成長して海岸浸食を防ぐ役割を果たしています。その効果を実感した村の人々は、積極的に植林活動に参加するようになっていきます。



ツアーに参加した社員が「みどりの授業」を実施。村の子どもたちの元気な姿が印象的でした。



過去に植林をしたエリアでは、活動を示す看板を覆うほどにマングローブが成長しています。



村の子どもたちと一緒にマングローブの植林や、育苗の作業を体験。みんなで森を育てる意識が生まれます。

地 球温暖化を防ぎ、生物多様性を育むマングローブの森は、すべての生物にとってなくてはならない存在です。マングローブの森を残していくことは、他の生物や次世代の子どもたちに対する私たちの責任でもあります。

インドネシアでは、1999年以来、マングローブ植林に取り組んでおり、現在は植林活動に加えて、マングローブの森を持続的に守るため、植林をする人々の生活のための施設づくりなどの支援も行っています。

2017年9月、東京海上グループの皆さんがはるばるインドネシアにやってくることで、政府関係者を含め、現地の人々が大変喜んでくださり、マングローブ植林事業の重要性を認識していただく機会にもなりました。

皆さんには、ブドノ村の小学校で「みどりの授業」を実施していただきました。現地でも、子どもたちを対象とした環境教育を行ってはいますが、外国からきた先生の話は、子どもたちにとって新鮮だったようです。さらに、マングローブ植林や育苗も一緒に作業し

ましたので、より深い理解につながったと思います。

植林したマングローブは成長していきますが、一方で、インドネシアのマングローブ林は過去30年間に約4割が消失してしまっており、現在も消失する速度が非常に速いのです。東京海上グループは、社会貢献事業であるマングローブ植林を100年続けると宣言されています。積極的に社会的な役割を果たそうとされているところに感銘を受けています。願わくは、今後もマングローブの森づくりの継続支援のほか、植林活動でつくられた森が地域の人々の手で持続的に保全されるように見守っていただければと思います。

公益財団法人オイスカ
インドネシア駐在代表

中垣 豊さん

インドネシア駐在
中垣 アダさん



身近な自然を知り、
みんなで見守ってほしい。



2017年8月、愛媛県西予市で自然・動物・人のふれ合いをとおして子育て支援活動を行うNPO法人どんぐり王国で、「触」ふれる、「植」そだてる、「食」あじわう「3つの「しよく」を体験できるイベントを開催しました。
参加した親子39名は、思い思いに自然や生きものに触れ、笑顔を交わし合って地域の豊かな環境を体験し、自然とともに生活することの大切さを学びました。



自然の恵みを 味わおう

「Green Gift地球元気プログラム」を通じて、地域の自然環境に興味を持った人どうしに新しいつながりが生まれていると感じます。今回のイベントへの参加をきっかけに、SDGsのような世界共通の課題にも興味をもってほしいですね。

環境省
四国環境パートナーシップ
オフィス(四国EPO)

高山 莉菜さん



「どんぐり王国」で育てた有機野菜や川でとれた新鮮な魚を使った昼食。羽釜と薪で炊いたごはんと生みたての生卵でつくる卵かけごはんが大人気でした。



自然に 働きかけてみよう



ビオトープに住む生きものについて説明を聞き、実際に探すことで、生きものが住みやすい環境について知ることができました。



普段から保険代理店として、地域の人々のために仕事をしていますが、もっといろいろな形で地域の人々とかわりたいたいと思っていました。「Green Gift地球元気プログラム」では、自然体験をとおして、初めて会ったお子さんともたくさんお話することができました。このようなご縁は大切なものです。これから仕事をしていくうえでも大事にしていきたいです。

てくのインシュアランス
中川 勉さん



「どんぐり王国」さんとの活動は2年目になり、お互いの理解も深まり、より実のある活動ができるようになってきたと感じます。「Green Gift地球元気プログラム」は、地域の人たちと自然の恵みを通じてふれあえる貴重な機会です。こうした活動をおして、さらに地域の人たちと関係を深めていきたいですね。

東京海上日動 愛媛支店
阿部 敏典



自然に 触れてみよう



「どんぐり王国」を流れる川の源流をたどって山の中へ。沢登りをしたり、川に住む生きものを観察して、自然の豊かさを実感しました。

東京海上日動との協働は、もらえる助言や感想を含めて、私たちにとって良い刺激となりました。このプログラムをとおして、参加された方どうしやスタッフの間で新しいつながりが生まれ、まさに、「Green Gift地球元気プログラム」のギフトにすることができました。

NPO法人どんぐり王国
山本 典子さん



人を支える

多様な人々が、それぞれの個性を発揮して活躍できる社会をつくるために、
私たち一人ひとりにできることがあります。



		多様性を尊重する	人を育てる
P18	仕事と介護の両立セミナー		
P20	障がい者スポーツ支援		



一人ひとりの行動で、より良い社会へ変えていこう

共有する

- 自分の体験を、家族や身近な人に話そう
- SNS などを通じて、活動を積極的に発信しよう

体験する

- ボランティアやバラスポーツの体験会などに、まずは一度参加してみよう
- 一度参加して、意義や楽しさに気づいたら、継続的に活動しよう

知る

- 興味のある活動について、本やインターネットで調べよう
- 活動に参加したことのある人の話を聞いてみよう
- 学校や会社、地域など、身近な場所での活動を調べてみよう

介護の専門家だからこそ 伝えられる知識と思いがあります。



東京海上日動
ベターライフサービス
ソリューション事業部
岩永 美穂

時代とともに変わる 介護ニーズに合わせる

少子高齢化が進む日本では、介護を理由に会社を辞める「介護離職」が社会的な課題になっています。心豊かに笑顔で暮らせる社会の実現に貢献することを経営理念とする東京海上日動ベターライフサービスは、この課題に向き合っています。

「従来の介護サービスは利用する人が選択することはできず、決められたサービスを利用するというものでした。しかし公的介護保険制度がスタートした2000年以降は、お客様ご自身がサービスを選び、契約し、利用する形に変わりました。最近では、お客様が積極的に情報収集をし、介護サービス事業者に対して要望をはっきり



伝え、納得いかなければ別の事業者に変えることも一般的になっています。私たち事業者は、このようなお客様のニーズを的確にとらえることはもちろん、誠実で思いやりをもって質の高いサービスを提供し続けていくことが求められています」

このような変化の過程で、企業の人事ご担当者様から介護に関する相談を受ける頻度も高まっていき、そのニーズに応えるべく企業向けの「仕事と介護の両立セミナー」の提供を開始しました。

仕事と介護は 両立できると知ってほしい

セミナーで大切にしているのは、具体的な実例をお示しし、その中で公的介護保険の活用方法の物語を乗せていくというス

トーリーづくりです。
「介護に対して漠然とした不安を抱えている方にとっては、論理的に整理された説明よりも『介護を経験した人が何に悩んでいるのか』『何をどう専門家に相談すればいいのか』といった、体験に基づく情報が一番腹落ちするのではないかと思います。」

私が講師として自己紹介するときに『介護離職の経験があります』とお話すると、皆様が強い興味を持ってくださるのがわかります。当時の私には『家族の中で介護するのは私しかない』『仕事で迷惑をかけるくらいなら、潔く離職すべきだ』という責任感と思い込みがありました。でも後々になって、仕事を辞めなくてもよかったと気づいたのです。このような私の経験を糧に、セミナーに参加される皆様には、仕事を続けながら介護をするイメージをご自身で思い描けるようになっていただきたいと考えてお話ししています。

私たちが、いただいた回答を何度も読み込んで、企業の思いが実現するようにセミナーの内容を作り込みます。このセミナーを受講するために大切な時間を確保してください。受講者の皆様のことを思い、『ご期待に沿うには、どんな事例を盛り込もう？』と試行錯誤を重ねます」

「介護に詳しい方にとっては、3つの課題があります。1つ目は、介護について事前の知識がないために自分自身で何とかするしかないと考えてしまうこと。2つ目は、会社に介護支援制度が整備されていても周知が不足していること。3つ目は、社員が制度を利用したくても言い出しにくい雰囲気や会社の中にあることです。介護は誰にでも起こりうるからお伝えしつつ、こうした課題の解決に、私たちはセミナーを通じて貢献していきます」

たくさんさんの思いを セミナーに託して

ソリューション事業部では、企業からセミナーの依頼を受けると、事前アンケートを実施します。企業内で介護について実態把握を行っているか、セミナーのゴールをどこに設定するかなどを回答いただきます。

「私たちは、いただいた回答を何度も読み込んで、企業の思いが実現するようにセミナー

東京海上日動ベターライフサービスの 「仕事と介護の両立セミナー」

講師陣は、全員がケアマネジャー・介護福祉士などの資格を持つ、経験豊富な介護の専門家です。ご要望に応じて、「上司編 仕事と介護の両立セミナー」や現在介護中の方向けの「中級編セミナー」なども開催しています。



座学だけでなく、介護の体験もできます

セミナー受講者の感想

そのときになってあわてないように準備が必要であり、準備のためには介護の知識が必要だとわかりました

親がそろそろ高齢になり、介護について覚悟しなければならなかったのですが、介護の知識を得ることができ、気持ちが楽になりました。

「知る」「見る」「体験する」で
共生の輪を広げよう。



すべての人が安心して個性を
発揮できる共生社会をつくりた
い。その思いを実現するためのア
プローチの一つとして、東京海上
グループは障がい者支援に積極
的に取り組んでいます。とくに、
障がいを超えて挑戦するアスリ
トを応援し、障がい者への理解を
広めたいという思いから、日本障
がい者スポーツ協会や、日本障
がい者サッカー連盟に協賛。全国
各地の社員に対して、障がい者ス
ポーツを「知る」「見る」「体験する」
機会を設けています。観戦やボラ
ンティア活動を通じて社員が障が
い者スポーツに関わることは、多
様性を尊重し合う企業文化につ
ながっていくと考えています。

すべての人がいきいきと活躍で
きる共生社会を実現するために、
社内から広く社会へ、活動の輪を
広げていきます。

「ボッチャ」とは？

ボッチャはパラリンピックの正式
競技の一つです。

重度脳性まひ者もしくは同程度
の四肢重度機能障がい者のために
考案されたスポーツで、赤・青6球
ずつのボールを、白いジャックボ
ール（目標球）に近づけるよう
に、投げたり転がしたりして、得
点を競います。



ハンディキャップ 体験講座

東京海上日動システムズでは、
身体的なハンディキャップに対す
る意識向上を目指し、毎年、体
験講座を開催しています。



簡易ルールでポッチャの試合を開催。立位だけでなく車いすでのプレーも体験することができました。



ポッチャ部の活動

東京海上日動
リスクコンサルティング
コーポレートサービス部



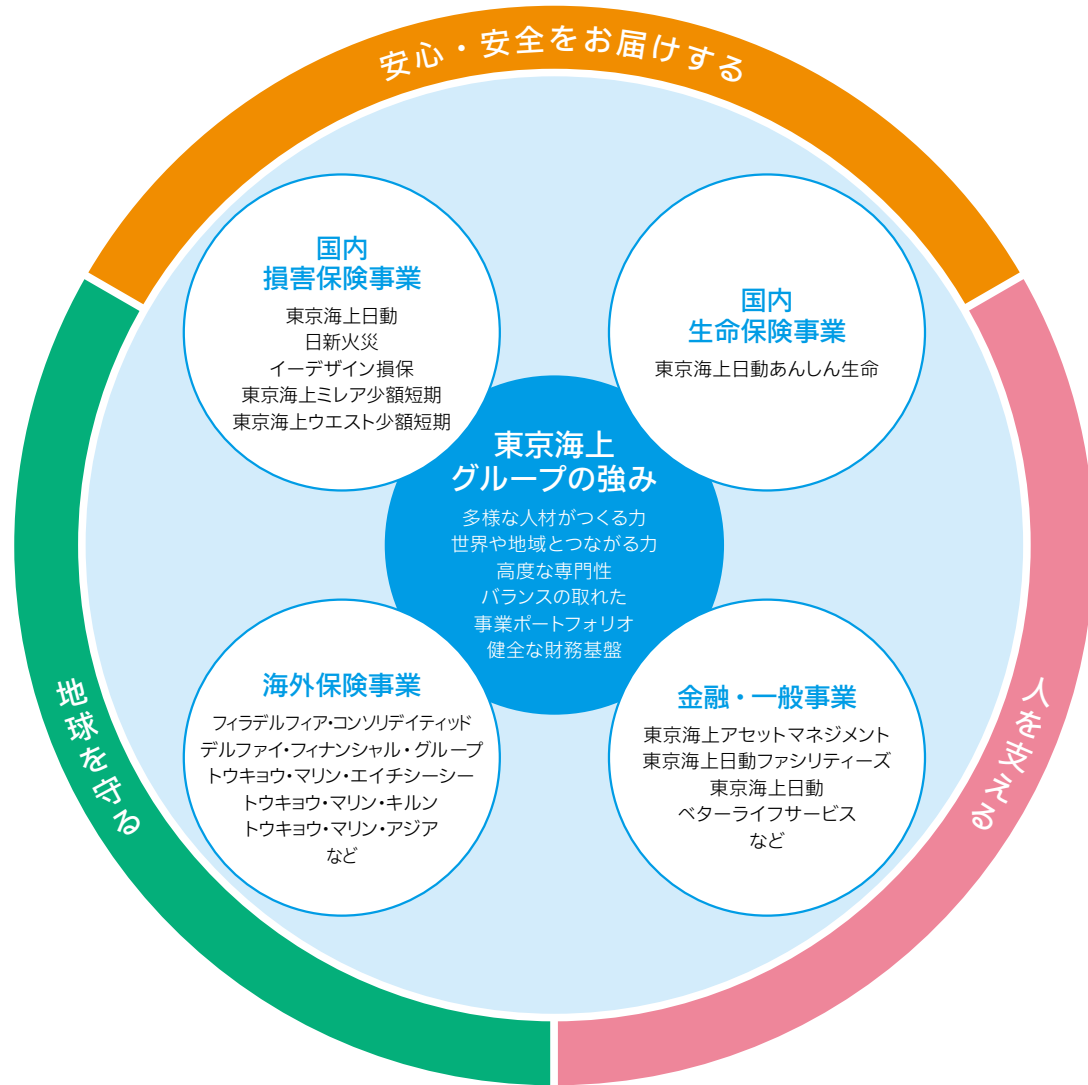
菊地 隆司

ポッチャ部は、2017年6月から
東京海上グループ横断で活動して
います。ポッチャは、障がいやプレー
経験の有無を気にせず誰でも一緒
にプレーできる気軽さと、戦略性
に富んだ奥深さが同居しているの
が魅力です。競技中も頻繁に言葉
を交わすスポーツなので、社員ど
うしが日常の業務以外でコミュニ
ケーションをとれるのも楽しさに
つながっていると思います。



世界のお客様の「いざ」というときを支える存在として。

私たちは、保険事業を通じて世界のお客様に安心・安全を提供し、地域・社会を支え、持続可能な地球環境づくりに貢献していきます。そのために、持てる力を発揮し、日々、発意による誠実で思いやりのある行動を積み重ねて、すべてのステークホルダーから信頼される良い会社“Good Company”を目指します。



会社概要

(2018年3月31日現在)

名称	東京海上ホールディングス株式会社	従業員数	39,191名
代表者	取締役社長 永野 毅		国内損害保険20,705名
設立日	2002年4月2日		国内生命保険2,216名
資本金	1,500億円		海外保険13,803名
事業概要	国内損害保険事業、国内生命保険事業、海外保険事業、金融・一般事業		金融・一般2,467名

講演会

Q 社内で活動の裾野を広げるために何をすべきでしょうか？

第一歩は「関心を持つ」きっかけをつくること。二歩目は「見ればわかる、見れば変わる」です。パラスポーツは、スポーツとしておもしろいものなのです。



2018年2月、東京海上日動システムズの社員対象セミナー「システムズフォーラム」の一環として、「共生社会実現への道」と題した講演会を行いました。

共生社会を支えるのは、一人ひとりの気づきと行動です。

公益財団法人
日本障がい者スポーツ協会 常務理事
(東京2020パラリンピック推進本部長)
日本パラリンピック委員会 副委員長



高橋 秀文さん

私は、東京ガスから日本障がい者スポーツ協会に転向しています。出向になるまで、公私ともに障がいのある人とふれあう機会がありませんでしたので、私自身「愛情の反対は憎しみではなく、無関心である」というマザー・テレサの言葉どおりの実態にありました。

しかし今では「もっと早く障がい者の皆さんと知り合えていればよかった」と強く思います。「失われたものを数えるな、残された機能を最大限に活かせ」がパラスポーツの基本理念です。一人ひとりが自分の特性を活かし、良いところを伸ばすにはどうしたら良いかを考える。その姿勢

は、障がいの有無にかかわらず人材の「適材適所」につながるものですから、企業の中に浸透してこそ大きな効果を発揮するのではないのでしょうか。

東京海上日動をはじめ、パラスポーツに協賛いただくパートナー企業にお伝えしているのは「共生社会をつくるトップリーダーになっていただきたい」ということです。社内で体験会などを実施することで、社員に感動が生まれ、会社の求心力が強化されたり、コミュニケーションが増える効果が期待できます。その経験は「人にやさしい会社」になるきっかけにもなることでしょう。そしてそういった会社は今後ますます伸びていきます。

共生社会とは、人の心の持ちようによって左右されるもので、数値化はできません。一人ひとりが身近な小さいことから始めて自分自身を変え、周囲を変えていく。そうしていつか、共生社会という言葉がなくなることが、私の目指す目標です。

「シェアリングエコノミーに対応した自動車保険」

シェアリングエコノミー中に生じた事故の円滑な被害者救済を実現

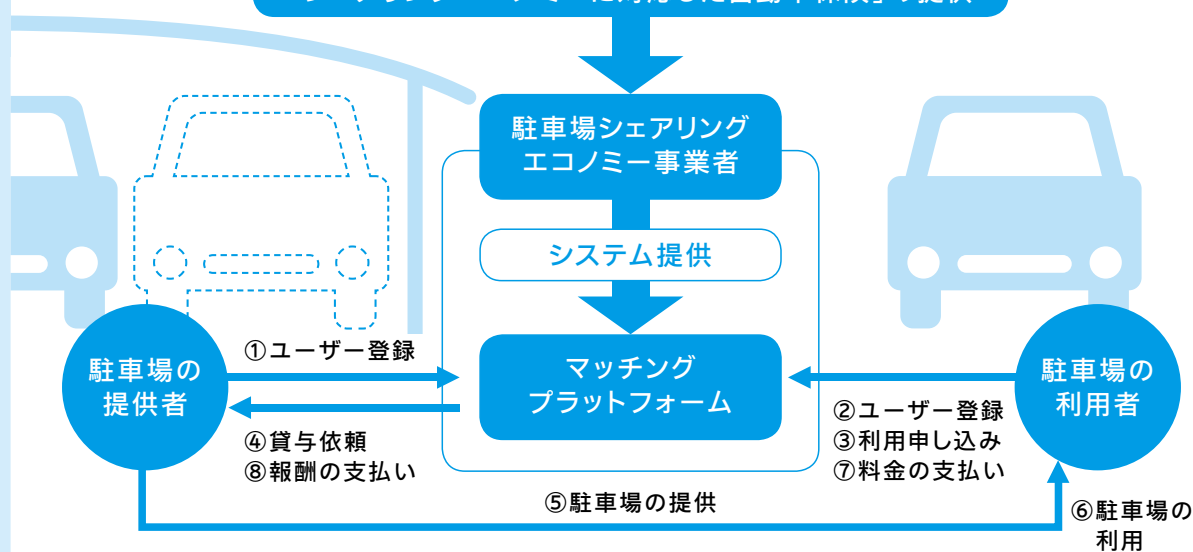
個人の遊休資産やスキルを共有・交換することで成り立つ新しい経済の仕組み「シェアリングエコノミー」は、日本国内の市場規模が拡大傾向にあります。シェアリングサービス中に生じた自動車事故は、一般的に個人の自動車保険で対応しますが、状況により個人の自動車保険では十分に補償

されない可能性があります。

そこで東京海上日動は、個人の自動車保険の不足分を補償する「シェアリングエコノミーに対応した自動車保険」を事業者向けに提供し、円滑な被害者の救済を実現します。

例 駐車場シェアリングサービス

「シェアリングエコノミーに対応した自動車保険」の提供



中小企業の皆様に安心を

不測の事態に備えるBCP[※]策定支援

東京海上日動では、自治体・商工会議所・商工会などと連携して、中小企業のお客様向けにBCP策定支援プログラムを提供しています。BCPの必要性を感じていただくため、震災模擬体験やグループワーク方式でのBCP骨子作成を実施するものです。

また、東京海上日動と東京海上日動リスクコンサ

ルティングが開発した地震リスク啓発冊子『今改めて考える 身近に起こりうる地震と対策』とBCPのエッセンスを盛り込んだ「簡単・早わかりBCP策定シート」は、2018年3月末までに合計73,000冊以上を配布し、企業のレジリエンス向上に貢献しています。

※ Business Continuity Plan、事業継続計画のこと。

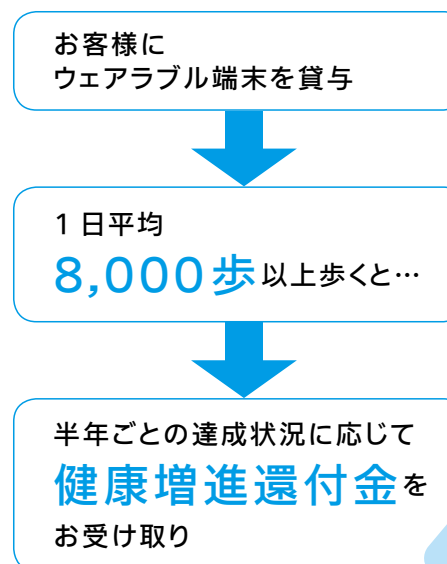
「あるく保険」

健康づくりを応援する医療保険

医療技術の進化により平均寿命が伸長する中、いつまでも健やかに長生きしたいとニーズが拡大すると考えられます。そこで、東京海上日動あんしん生命は「未病・予防」にフォーカスしお客様を生活習慣病などの重篤な病気から未然にお守りするこ

とを新たなコンセプトとした医療保険「あるく保険」を開発しました。

「あるく保険」は貸与したウェアラブル端末によって計測されたお客様の健康増進活動に応じて保険料の一部をキャッシュバックする業界初の商品です。



LGBT[※]に対応した商品の見直し

同性間のパートナーも「配偶者」として、お取り扱いします

性的マイノリティ（少数者）に対する社会的な関心の高まりをふまえて、東京海上日動は、補償の対象を家族や夫婦としている商品について、「配偶者」の定義に同性

間のパートナーも含める対応を順次進めています。お客様の多様な家族形態を尊重し、いざというときにお役に立てる商品をお届けします。

※ LGBTとは、L: レズビアン（女性同性愛者）、G: ゲイ（男性同性愛者）、B: バイセクシュアル（両性愛者）、T: トランスジェンダー（心と体の性の不一致）の頭文字をとった、性的マイノリティ（少数者）を表す総称。

時代の変化やニーズに
備えを提供し続けています。

商品やサービスで
お客様に新しい価値をお届けします。

すべての人と社会から信頼される 会社を目指して

私たち保険会社の大きな役割は、いざというときにお客様に保険金をお支払いすることです。そして、私たちが取り巻くリスクとそれに備えることの大切さをお伝えし、ひとたび事故や災害が起これば、被害に遭われた皆様と向き合い、これからのことを一緒に考えることです。そうして皆様に「あんしん」をお届けする。それこそが私たちの役割であり、使命です。世界に約4万人いる、私たち東京海上グループの社員は、この揺らぐことのない使命感を持ち続け、お客様や社会と向き合い続けています。

近年は、地球環境や社会構造、科学技術が驚くほどの勢いで変化し続けています。国連総会で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、達成に向け

た動きが加速しているのも、その一つの表れでしょう。こうした変化に適切に対応するためには、使命感を持ち、誠実に様々な課題解決に取り組む続けること。そして、私たち社員全員が、自分自身に果敢に挑戦を続け、結果を出していく覚悟が問われています。

また、ただ技術や理念ばかりが優れていても、そこに社会のためにお役に立ちたいとの思いがなくては、お客様に真に頼りにされる存在になることはできません。社会がどう変わっていくのかを想像し、人々が幸せになるストーリーを描き、地域の皆様とともにより良い未来をつくっていく必要があります。私は社員に、「Fail Forward」「Fail Fast」という言葉を伝えていきます。すすんでたくさん挑戦をし

て、そこからの学びを商品・サービスや日々の事業活動に反映させることで、信頼を確かなものに変えていくことが大切です。

私たちのあらゆる事業活動は、着実に、そして確実に社会課題の解決に貢献するものだと信じています。ひとたびゴールを達成して満足してしまつたら、そこで私たちの進歩は止まってしまうはず。中期経営計画で掲げている「To Be a Good Company」の「To Be」には「Good Company」の実現に向けて、限らない努力を続けていくという私たちの強い「決意」が込められています。お客様や地域の皆様一人ひとりに真摯に向き合うこと、そして世界の動きに目を向けること。その両輪をたゆまず回し続けながら、皆様とともに私たちは不断の挑戦を続けてまいります。

付録（防災クリアファイル）

※防災クリアファイルは紙媒体のみの付録となります。



災害への備えを見直そう

地震への備えは、一度で終わるものではありません。
繰り返し見直し、家族とも話し合いを重ねてほしいという思いを込めて
防災のポイントをクリアファイルにまとめました。
健康保険証やパスポートのコピーなどを入れて、
防災グッズと一緒にご活用ください。

※防災クリアファイルは日本国内の「ぼうさい授業」（P.8）で、
児童生徒の皆さんに配布しております。

東京海上ホールディングス公式サイト CSRページのご案内

東京海上ホールディングス CSR 検索

本ブックレットはPDF版も配布しています。
また、「サステナビリティレポート」には、より詳しい情報・データや
各ステークホルダーに対する取り組みなどを掲載しています。
ぜひ、アクセスしてご覧ください。

<http://www.tokiomarinehd.com/csr/>



東京2020 ゴールドパートナー（損害保険）

2018年6月
東京海上ホールディングス株式会社
取締役社長グループCEO

永野毅





東京海上ホールディングス株式会社

東京都千代田区丸の内1-2-1

東京海上日動ビル新館

TEL 03-6212-3333 (代)



家族で話し合っておくべきポイント

- ・あらかじめ、各自「緊急連絡カード(名前・住所・連絡先)」を携帯しましょう。
- ・持病の情報や服用薬の情報も持っておきましょう。
- ・家族で実際に避難路を避難場所まで歩いて確認しましょう。
- ・災害用伝言板ダイヤル(NTT)や災害用伝言板(携帯電話サービス)を使った安否確認の方法を覚えておきましょう。
- ・緊急時には「遠方の親戚・知人に連絡すること」などを決めておきましょう。
- ・(家族が一緒にいる場合)いざというときの役割分担を話し合っておきましょう。
- ・自宅を出るときに、玄関に「紙(避難場所)」を貼ることを打ち合わせましょう。
- ・家族それぞれが自分の安全確保を優先させることを約束しておきましょう。
- ・災害情報を取得して周囲の状況変化を常に確認しましょう。

自宅や通勤・通学経路での「一時避難場所」と「避難所」はどこですか。

地震発生時における家族の集合場所はどこですか。

いざというときの家族の連絡手段は何ですか。



防災のポイント(地震編)

地震の前に そなえる。

- 家具や什器を固定する。
- 家の耐震診断をして補強する。
- 非常口を確認する。
- 寝室に大きな家具を置かない。
- 通信や情報取得手段をためてみる。
- 家族との連絡方法や避難場所をきめる。
- ライフライン断絶にそなえ、水や非常食などの備蓄品をそろえる。
- 消火設備をおく。
- 地震が起こったら まもる。

- 机やテーブルの下で身をまもる。
- ヘルメットをかぶる。
- なるべく大通りを目指す。
- 避難ルートを確認する。
- 周囲の音やにおいに注意する。
- バッグや荷物で頭をまもり、かがむ。落下物に注意する。
- 地震がおさまったら おちついて、うごく。

- 火を止める。
- 余震や火災にそなえる。周囲の安全を確認する。災害情報を取得する。
- 道路や交通手段の情報を確認する。
- ブレーカーを遮断する。
- 情報が正しいか、落ちていて確認する。
- 困っている人を助ける。
- 沿岸部は津波や液状化にも注意する。
- 出口を確保する。
- 避難する。荷物は背負って両手は自由に。
- 山間部は土砂災害に注意。